

じんけんひろば No. 5

何に見えますか？ あるのに見えないことも・・・

物事には二面性があり、見る角度や立場によって、その意味や印象は大きく変わることがあります。右の絵、あなたには何に見えますか？「アヒル」に見える人もいれば、「ウサギ」と答える人もいます。このような絵は「だまし絵」と呼ばれ、見る人の視点によって見え方が変わる不思議な絵です。

実は、人権を考えると、これと同じようなことが起こります。

人権と聞くと、まず「思いやり」や「優しさ」といった言葉が思い浮かぶかもしれません。これは人権の「個人的側面」と言えます。

しかし、人権には、もう一つ大切な面があります。それが「差別が現実存在する」という「社会的側面」です。どちらか一方に偏ってしまと、人権を正しく理解したことにはなりません。両方の側面から人権を捉えることが大切です。



◆◆「気にせんとき」と「関係ない」を言わせない

神戸親和大学の新保真紀子さん（徳島県出身）は、長年大阪で教員として勤務し、「小1プロブレム」などの教育実践に取り組んできました。その彼女が、大阪・松原山中学校に勤務していた頃、特に心がけていたのは、「気にせんとき」や「関係ない」という言葉を言わせない、ということです。誰かに悩みを打ち明けるのは、とても勇気のいることです。迷いに迷って「この人なら話せるかもしれない」と思って相談したときに「気にせんとき」や「関係ない」と返されたら、どんな気持ちになるでしょうか？何日も何日も悩み続け、心が張り裂けそうな気持ちでようやく口にしたカミングアウト。それに対して無関心ともとれる言葉を返されたら、その子は、人とのつながりを失ってしまうような、深い絶望に陥ってしまうかもしれません。

◆◆受け止められることで育つ自尊心

逆に、必死の思いで語ったことを受入れてもらったとき、その子は「こんな私でもいいんだ！」と心から感じるができるのです。新保さんは、そうした経験を何度も積み重ねていくことが、自尊心を育てることにつながると語っています。

◆◆差別をなくすために必要な視点

差別をなくすためには「心の問題」ではなく、「社会的な問題」として現実目に向けることが必要です。この両方の視点を持つことが、人権を考える上でとても重要です。

そして私は、もう一つ大切なものがあると思っています。それは「差別に対する怒り」です。理不尽なこと、不当な扱いに対して怒る心、それもまた人権を守る力になります。

「思いやり」「現実へのまなざし」「怒り」これらがそろったとき、差別をなくす取り組みは、より力強く、広がりを持ったものになると信じています。（文・森 本）

7月のお知らせ

講座名	日 時
しあわせボディ教室	毎週月曜日 13:30~15:00
自力整体教室	毎週金曜日 13:30~15:00
将棋教室	毎週水曜日 13:00~16:30
健康教室	7月 3日(木) 9:00~11:00
料理教室	7月24日(木) 9:30~
ハンドメイド	7月7・8日(月・火) 10:00~16:00

2025年(令和7年)

一条ふれあい会館だより 7月

阿波市吉野町西条字東須賀94-3 TEL・FAX 088-696-2487



善入寺島ひまわり畑(2024.7月撮影)



熊谷寺(2025.6.12 撮影)

潮明寺(2025.6.15 撮影)